

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：Gakkenほいくえん 登戸	種別：認可保育所
代表者氏名：増田 春美	定員（利用人数）： 60名
所在地：〒214-0014 川崎市多摩区登戸1612-1	
TEL：044-930-1251	ホームページ： https://nursery.cocofump.co.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 学研ココファン・ナーサリー	
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員 12名
専門職員	（専門職の名称） 名 管理栄養士 3名
	保育士 18名 調理師 1名
	栄養士 2名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等）
1歳児保育室 2歳児保育室 3歳児保育室 4歳児保育室 5歳児保育室 給食室 事務室 相談室 1F・2Fの多目的空間	
監視カメラ：玄関 1F多目的空間 2F多目的空間 2・3・4・5歳児保育室	

③ 理念・基本方針

企業理念

・すべての人が心ゆたかに生きることを願い、今日の感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します

保育理念

・育ちのチカラが輝く、心ゆたかな未来をつむぐ

保育方針

- ・子どもが愛されている実感を持ち、他者との関わりを楽しめる場を創出します
- ・子どもの“やりたい”にとことん寄り添い、「好き」を探求する時間を大切にします
- ・それぞれのご家庭の子育てパートナーとして、喜びと感動を共有します
- ・人と人、人と場をつなげ、学び合い、育ち合える関係を構築します

④ 施設・事業所の特徴的な取組

学研のコンテンツを保育に導入

- ・1歳児～3歳児の園児対象 月刊絵本の無料配布 ▶子どもの興味関心をリアルに保育活動に導入
 - ・4歳児・5歳児対象 「もじかずランド」の導入 ▶遊びながら学べるもじかすの習得
 - ・4歳児・5歳児対象 「スポーツチャンバラ」の導入 ▶心（礼で始まり礼で終わる）と体をバランスよく鍛える
- ▶体を動かすことを楽しみながら健康な体づくりを目指す
- 保育活動

<ul style="list-style-type: none"> ・食育活動（栄養士主体） ・異年齢活動 ・貸し出し絵本（のぼりとかしだしとしよ） ・子育て支援活動 ・多世代交流
課外活動 <ul style="list-style-type: none"> ・学研教室（5歳児対象）週1回 ・コスモスポーツクラブ（体操教室）（2歳児から対象）週1回

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年6月1日（契約日） ～ 2024年2月6日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2018年度）

⑥総評

<p>◇特長や今後期待される点</p> <p>特長</p> <p>子どもとの対話を通して主体性を培う保育を実践している</p> <p>職員は、子どもの人権や、主体性についての研修を積極的に受けて、話し合いを重ね、子どもへの姿勢について共通認識を持って保育実践をしている。職員が穏やかに肯定的に子どもに話しかけることで、子どもは安心して自分の思いを表現できている。日常的に異年齢保育を実践し、職員が、見守り、代弁、仲立ちなどの適切な関わりをすることで、お互いの子どもが刺激を受け合いながら、やりたい、チャレンジしたいという気持ちが育っている。朝の会・終わりの会に加え、子ども会議などを設けて、子どもが意見を出し合う機会を作り、子どもの気持ちを受け止め、挑戦していくことができるよう取り組んでいる。安全対策アンケートの集計を取り、結果を職員間だけではなく子どもにも伝えることで、子どもは、一緒に園内の危険箇所を探し、園のルール作りに関わるなどの活動が展開されている。このように、職員は、子どもとの対話を通して様々な場面で子どもたちの主体性を培う保育実践を行っている。</p> <p>職員の適性に基づくシフト管理と組織運営の最適化</p> <p>園では職員の負担軽減と業務効率化のために、適正なシフト作成を行い、職員の適性に応じた配置を基本方針としている。日常の業務を細かく観察し、必要に応じて業務の見直しや改善を主任やリーダーと共に検討し、実行している。さらに、園長と主任の職務分掌をはっきりさせ、組織運営が円滑に進むよう軌道修正を進めている。これらの取り組みが職員一人ひとりの能力発揮と、組織全体の運営効率の向上に寄与している。</p> <p>今後期待される点</p> <p>人材育成のさらなる取り組みが期待される</p> <p>職員は、様々な研修や園内での会議などを通して、組織として子どもの主体性を大切にする保育を実践している。子どもへの思いを共有し、働きかけや環境構成にも配慮している。しかし保育の細やかな場面で保育観のすり合わせが十分ではない部分もある。今後は、積み重ねてきた取り組みが全職員に共通認識としてさらに深まり、園が目指す保育が実現していくことが期待される。</p> <p>今後の展望として、園は地域交流と子育て支援のさらなる拡大を目指している</p> <p>日常の散歩や公園訪問時には地域住民との挨拶を通じて、保育園の存在をより深く知ってもらうための取り組みを継続している。また、ボランティアの受け入れにも意欲的であり、参加者が増えるよう努力を続けている。盆踊りの指導や畑での収穫体験な</p>

ど、地域の方々と協働することで保育活動の充実を図り、保護者や子どもたちからの評価も得ている。広い園庭を公園のように活用し、地域住民がいつでも利用できるようにすることで、園の活動が地域に広く認知されるよう取り組んでいく計画である。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

前回の受審から5年が経過していた為、今の園の状況（施設運営・保育環境）、更に職員自身の保育（業務全般）を見つめ直す良い機会となりました。
他人事ではなく自分事として捉え考える機会となり、主任他リーダー層と園長（本部）の経営・保育方針等を確認し共有できたことで、職員全体への周知と認識の統一化も図ることができました。
更に保護者の皆様の想い（励まし、労い、ご要望等）も共有させて頂き、園としても嬉しいお言葉や新たな発見と保護者視点での園の課題をも認識できて、改めてアンケートへのご協力に感謝を申し上げます。
園を取り巻く地域の状況も変化する中で、地域支援（保育ニーズ）に対応すべき職員の育成にも力を入れ、常に学び合う意識が持てる働きやすい職場環境も整えたいと考えます。職員のやる気、働く意欲を引き出しモチベーションアップに繋げ、職員一人ひとりが「保育=楽しい」と思うことで子ども、保護者の皆様への支援そして地域の子育て家庭への支援に繋げていくための「保育の質向上」を目指していきたいです。
これまで以上により良い支援を提供できるよう、今回の課題の分析と改善に取り組んでいくこと、子ども一人ひとりの成長「生きる力」を身につけるための保育支援とは、どんな支援なのかを改めて園全体で考えていきたいです。
これからも、子ども一人ひとりに寄り添い個性を認め尊重しながら保育を展開していくためにも、保護者の皆様と連携を図り協同しつつ、本部・園・職員が一体となりお子様の成長に携わっていきたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり